



大文字登山・銀閣寺～哲学の道～4話

ある日、年配の女性と若い男性が乗車されて、「運転手さん、無理なお願い聞いていただけます」

「はい、何でもどうぞ、観光なら得意ですから」

「いえ、観光と言えるかどうか...実は～」と今日の目的を聞かされた。

この親子は、岡山から来た人でこの春から一人息子が東京の大学へ行くそれで初めての日帰り旅行をと京都へ来たが、それが観光ではなくて何か一生の思い出を残したいと言う。

「一生の思い出ですか～」

「はい、この子の父親は早く亡くなり、私は死に物狂いで働いて高校までは何とか、ところがどうしても東京の大学へ行くというので...息子は奨学金とアルバイトで生活は出来るというので、でも東京と岡山では余りにも遠すぎるのでしばらく会えないので...私も二十数年働いた会社が倒産して今は失業保険暮らしの上、体調も良くないし...」

「そうですか、わかりました」と応えたが私の頭はパニックになっている。

清水寺の舞台から飛び降りれば一生の...いや、怪我をする。金閣寺の池に一、嵐山の渡月橋から一いやどれもこれも人騒がせするだけだ、
一生の思い出～ウン、そうだ°！。

「お母さん、五山の送り火を知っていますか？」

「はい、大文字焼のことですね」

「そうです、それを何で知りました」

「いつも、お盆にNHKのテレビで...主人が亡くなってからはいつもテレビで大文字が映ると息子と二人で手を合わせています」

「それなら丁度良い、どうです、大文字山に登りませんか？」

「え、山ですか？」

「いえ、山といってもほんの三十分ほど歩けば大の字の火床に行けます。そこからは京都が一望出来て素晴らしいです。それにここなら年に一度は必ずNHKの九時のニュースで放送されます。東京と岡山と同時にです、離れていても一生の思い出になります」

それまで黙っていた息子が始めて口を開いて、

「お母さん、そうしよう。金閣寺や清水寺は俺が学校を卒業して就職したら必ず連れてやるから、今日は運転手さんの言う通りに...」

どんな小さな山でも山は山。曲がりくねった坂道は自然に親子の手を固く結ばせ、息子は照れもせず母親の額の汗を拭いていた。

★～大文字山は銀閣寺の裏山にあり門前を北へ一本道になっています。大文字の火床までは約30分で行けます。途中にはこの山が大昔地中にあった証拠としての「貝の堆積」の地層があります。京都の人はこの大文字の火床に残った黒い灰を持ち帰り「家内安全」のお守りにしてい

ます。尚、小さな山でも山ですから火床から奥へは絶対に行かないでください...遭難の恐れもあるからです。

★～銀閣寺からは哲学の道～法然院～永観堂～南禅寺～と歩くコースになっています。健脚の方は、さらに平安神宮～知恩院～円山公園～八坂神社～高台寺～清水寺～三十三間堂～JR京都駅。このコースは先に市バス（220円）タクシー（JR京都駅から約2000円）に乗って銀閣寺に行くほうが便利で復路もししんどくなったり時間がなくなれば即タクシー、市バスに乗れます。

★～身障者手帳をお持ちの方は全国共通ですから忘れないように！この手帳を明示すればタクシーは10%割引、各観光寺院にも本人無料、介添え者割引等々のサービスもありますが、これは拝観料の券を買う窓口には不親切にも書いてありません。いずれ私がこの問題をこのブログ等で改善いたします。

夏の怖い体験談～美人幽霊 真弓～5話

夏の夕暮れ、宇治の国道24号線で若い女性が手を高く上げてタクシーを拾った。客は岩倉までと告げた。私はこの暇な時に宇治から京都の北部までの客にありつけラッキーと思っていた。

その娘は17～18歳でまだ幼さが残る笑顔は透き通るように白い、小一時間の道程でその娘は病気をして入院をしている。今日は法事のため外泊がゆるされ家に帰ることなどを私に楽しげに話している。タクシーは川端通りから白川通りに入ると、娘は右前方を指さして、

「ほら、あの店「レストラン・まゆ」」は私の名前「真弓」から取っておとうさんが付けてくれたの」

「へエ～そうなの、ここにこんな店があるのは知らなかった」

「そらそうよ、まだ開店していないの、私の病気が治るまで」

「それなら病気が治って、店がオープンしたら必ず行きます」

「うれしい～」

車は岩倉の閑静な住宅街に入り、娘の指示通りの家の玄関に止めた、娘は、

「運転手さん、少し待ってね、お金もらってくる～」

それからもう十数分たつが誰も出てこないの、玄関のチャイムを鳴らすと母親らしき人が出てきた。

「すみませんータクシーですけど～」

「はい？、うちはタクシーをたのんでいません...」

「いやいや、その～娘さんの分です」

「娘...娘って、真弓のこと」

「はい、その真弓さんを宇治の病院の前からここまで...」

その母親は、真っ青な顔になり、「お、お父さん～」

ようやく事情がわかったのか部屋に通された私の目に、真新しい仏壇と遺影が入った。そこにはさっきまで私のタクシーに乗っていた真弓が笑顔で私を見ている。

真弓は白血病で宇治の病院で亡くなった。そして昨日葬儀が行われていた。両親にタクシーの中での会話を伝えると、母親は涙を流して、

「真弓を家に連れて帰ってもらってありがとうございました。これであの娘も成仏できます」と、何度も頭を下げられていました。

★～タクシーと幽霊というのは何かと縁があるものでこの京都でも、真夜中に美人を乗せたがルームミラーには映らず運転手が後ろを見ると乗せたはずの女性が消えていた。そして座席はびっしょり濡れていたというものです。

★～この幽霊が出没する場所というのも病院の裏、墓地、池の近くと相場も決まっています。また京都らしく平安時代の風葬の跡地の北嵯峨野、渋谷街道、蓮華谷となります。この渋谷街道の裏山は豊臣秀吉の墓がある阿弥陀ヶ峰で、その裏山の谷には今でも京都市の火葬場があります。つまり一千年以上もここは死者の最後の場でもあるのです。

★～国道1号線の山科から京都市内の抜け道として私もよくタクシーで通りますが、やはり空車でも行灯を消して大急ぎで通り抜けますがやはり一千年の怨念というのか靈気が...この怨念の谷になぜか女子大のテニスコートと女子寮があります。この話をもしこの女子大の寮生が偶然読んだら！～ケケケ

ペニス1万本～男は「知性とやさしさ」～6話

狭い京都を走っていると同じお客さんを何回も乗せて親しくなります。毎日昼前に乗られる三十前後の女性は木屋町の人妻サロンに勤めておられ、私にも超過激なサービスをするから一度店にくるように誘われます。

「お客さま、やっぱり人妻ですか？」

「いえ、独身だけどこの道一筋で雄琴からヘルス、三十過ぎればピンクサロンと相場が決まっているの」

「それならもう星の数ほどペニスを！」

「そら～もう何万本よ！」

「へえ～それで日本人の平均はサイズは何センチぐらい？」

「そうね | エッチビデオのようなビックサイズの人たまにはいるけど～そんなの痛いだけよ。だって考えて運転手さん、女の奥行きサイズは8～10センチなのよ、それに合うサイズが男の人の平均よ」

「そんなもんですか？」

「そう、勃起時に8～10センチあれば充分なのに、アホな男は小さいとか大きいとかで悩んでいるんだって？」

「ええ、その通りで15センチもあっても小さいとかで～！」

「そんなのナンセンス。私の知っているナンバーワンのホストなんて勃起時10センチでお金持ちのおばさまを狂わしているわ。男はネ、知性とやさしさがあればたとえ5センチでも女にモデルわよ」

「知性とやさしさですか？」

「そう、それと少しのお金。運転手さん、40分1万円で遊んで行かない？運転手さん、やさし
そうだから店に内緒のサービスをしたげる」

そういえば私の友人で馬並のペニスを自慢している男がいましたが、何故か今だに独身で浮いた話も聞きません。その反面ペニスが小さいと悩んでいた友人はモテモテですから、ベテラン風俗嬢のご意見には説得力があります。

もしこの方面で悩みがあるご同輩諸氏、恋人や奥さんにこの文章をプリントして何気なしに見せることをお勧めします。そして「知性とやさしさ」を身につければビジネスにも恋にも強い味方になることを請け合います。

★～なぜ男は風俗で遊びたがるのかω

それは簡単です。恋人や妻とのセックスは男が女性を満足させて当然の風潮がまかり通っています。これは付き合っている期間や新婚ならともかく、釣った魚に餌はいらないのごとく結構セックスはしんどい仕事ですからつい嫌になってしまうのです。

★～ですからこれを解決しようと思ったら夫婦で風俗ごっこをしたらいいのです。今夜は妻が夫をマンゾクさす日とかを決めるのです。もちろん妻は風俗嬢のごとくセックステクニックを磨く必要もありますが、これを嫌とか恥ずかしいとか、夫は妻を満足さすものだからいいやがったらもう離婚するか浮気するか風俗で遊ぶしか方法はありまへん～キャハハハ

★～もうこうなれば妻もだまっちはいまへん、不倫の一つもやったろかとなります。夫婦和合は妻が助平～になることです。ケケケ

やきぶた（焼豚）は、京都発だった！～7話

明治30年のある日、明治天皇の使いが下鴨神社を訪れている。その使いは天皇が夏風邪をこじらして食欲がない上、微熱がここ10日ほど続きかなり弱っている。そこで天皇に何か食べたいものとは聞くと天皇は、京都下鴨の鴨料理が食べたいというのでまずは下鴨神社にきたという。

宮司はさっそく、下鴨で精肉店を営んでいる「むら瀬」の主人、村瀬八衛門に相談を持ちかけた。八衛門は、

「宮司さん、今は夏ですよ、鴨なら鴨の燻製ぐらいしか」

「そら～だめだ！なにせ天皇は歯が悪くて燻製などはとてとても」

「柔らかくて鴨に似ているものなら、あるにはあるが」

「八衛門、それは・・・牛か？」

「いや、牛は以前天皇さんに献上して大変喜ばれたが、そのころ天皇は若かったから、牛は少し固いし、豚なら？」

「ほう、豚の肉か・・・」

「しかし、歴代の天皇はまだ豚のようなものは召し上がっていない、もしバレたら斬首されて三条河原でさらし首にされる」

「八衛門、7日後に天皇が京都御所にこられる、それを鴨と言えよ！」

「宮司、もし・・・」

「八衛門、見つからないようにやれ！」

「そんな～殺生な！」

無理難題を押し付けられた八衛門は、鴨の燻製を噛みながら考えていた。元々柔らかい豚肉を煮たのでは柔らかくなりすぎて鴨にはほど遠い、そこで固い腕肉を醤油と砂糖、それに鴨の脂をミックスしたタレを作り、5日ほど漬け込んだ。それを備長炭で半日かけてこんがり焼き込んだ。豚の余分な脂がしたたり落ち、そこに鴨の脂がしみ込み、鴨の風味付きジューシーな「やきがも？」が完成した。それをスライスして天皇に差し出した。

天皇はよほど旨かったのか、上機嫌で、

「宮司、この鴨は下鴨の鴨か？」

「はい、下鴨のやきがもです」

「そうか宮司、ところでこの鴨の足は何本じゃ？」

「えっ！はい・・・後ろ足は2本です」

「ほう、それは珍なる鴨じゃ、ところで宮司、他に珍なる鴨は？」

「はい、前足が2本の鴨がおります」

「その鴨はどうして食べる」

「はい、肉を鍋で炊きまして、そこに九条ネギをたっぷり入れて食べますともう絶品です」

「ほう、この鴨はネギに合うのか、それなら鴨に間違いはない。宮司でかした。で、その鍋はいつ？食べられるのか」

「陛下、おそれいりました」

こうして日本最初の「やきぶた」が誕生しましたが、どうも中国の焼豚（チャーシュー）と勘違いされています。中国の焼豚というのは火を通したの意味で、焼く、煮る、蒸す、炒める、の総称になっています。ですからチャーシュー麺に煮豚が入っていても、これはこれで中国流では正解になります。しかし、この日本では「やきぶた」は文字通り焼かなければ「やきぶた」と言っ
てはいけない法律を作るべきだと思います。

★～この日本の伝統ある「やきぶた」を今も京都の老舗の「むら瀬」が作っています。検索＝（やきぶた むら瀬）

★～秀吉も家康も豚を食べたといひます。この豚は鹿児島黒豚でしたから現在の白豚とはまた違ひます。明治にはイギリス原産の黒豚バークシャーがイギリスから輸入されたそうですから、この小説の「やきぶた」というのはおそらくこの黒豚の「やきぶた」だと思ひます。その後、昭和になってからは白豚が輸入されて改良された。さらに戦後の「中華そば・ラーメン」の具にかかせない「やきぶた」の需要で養豚技術が発展した。

★～京都の下京区に古くからあるラーメン店では、その昔「肉なし」というラーメンがあった。やきぶたなしの麺とスープだけというものだが、そのスープには焼豚の栄養がいっぱい入っていた、それに九条ネギは食べ放題。もちろん「やきぶた入り」のラーメンはあったが、それは当時の給料では贅沢なものであった。それが給料前になると「肉なし、麺抜き」になる。つまりスープだけを注文して日の丸弁当のおかずにしたのだ！

★～今はワーキングプアや派遣労働でみんな貧乏になった。しかし、そのころの貧乏には大きな夢があった！一生懸命働けばやがて車も家も結婚もできる...だから「肉なし、麺抜きラーメン」でも不満はなかった！またこのころはラーメン店の店主も弁当持ち込みのスープだけの客でも大歓迎してくれた～これが日本の国力になったことは間違いがないと思う。

★～私の小説で自己破産をテーマにしているのがあります。これは主人公を女性にしていますから少しH系ですが、自己破産までの流れが書いてありますから参考になります。とりあえずは裁判所に走りこめば今月からの返済はストップできますから自殺というような最悪のことはなくなります。ぜひ、読んでください。

長編小説「京都フラワーランジェリー物語」

<http://p.booklog.jp/book/16636>

短編小説100連発

<http://p.booklog.jp/book/16691>

老人と性「京都タクシードライバー・さくら」

<http://p.booklog.jp/book/16816>

7人の天使の恋～美雪編の1話

<http://p.booklog.jp/book/16980>

7人の天使の恋～早苗編の1話

<http://p.booklog.jp/book/17421>